

「平和とは」

古堅南小学校 六年 一組 大城 愛純

「戦後七十一年」よくこんな言葉を、テレビ、ニュース、ラジオで聞く。沖縄がアメリカ軍に負けてから七十一年がたった。たふさんの人が亡くなった、あんな出来事はもう二度とくり返してはならない

私は、あまり、今の世の中、平和だとは思ってない。沖縄だけ基地があり、沖縄だけオスプレイがたくさん生活する場所の近くで飛

んでいる。それに、最近、女の人が軍の関係者によって殺害された。

今の沖縄は、「平和」といっていいのだらうか。

私にとっての平和とは、争いがなく、食べる物が充分にあり、安心して家で眠ること、できるということだ。道を歩いていて、殺されることもない。自分たちで死ぬ必要もなく、逆に自分たちが人を殺す必要もない。人と人同士の殺し合いもなく、差別やいじめ、そ

んなものがない世界を、本当の平和という  
のではないだろうか。

今の世の中は、テロが起こったり、何もして  
いない人が、傷ついたりしている。いじめ  
もいつまでたってもなくならない。苦手なこ  
とは、誰にだってあるのに、言葉が少し変な  
だけと、ささいなちがいでいじめられる。い  
じめや差別が、一日に何度も、ニュースに出  
てくる。日本は、戦争に負け、平和の大切さ  
を考えたはずなのに、なぜ、毎日のように

人と人が殺し合ったり、いじめを苦にした自  
殺が起こったりするのかわ。私は、とても不思議  
だ。

六月二十三日の慰霊の日、テレビの画面に  
系満マブニの平和の礎で手を合わせ、目をつ  
まみ、これからの沖縄、日本、世界が平和  
になるようにと祈っている人達がうつつて  
いた。平和の礎に訪れ、手を合わせた人々に  
平和を願わない人は一人もいないはずだ。

き、と誰もか、平和を願っている、と強く思

う。でも、それを実現していくということが、  
とても難しいことのように感じた。

私達にできることは何だろうか。一人一人が平和を実現できるように、努力をすれば、  
この世の中は平和になるのだろうか。

「一度ある。たことは二度ある」と聞いたこと  
がある。みんなにたくさんの人が亡くなり、  
何もかもが失われしまった沖縄戦。あんな  
出来事はもう二度と、こんな世の中に起こ  
ってはいけないうし、起こってほしくないと強

く思う。私は「一度ある。たことは二度ある  
を、二度も起こしてはいけないうしに変えてい  
きたいと思う。そのために私が大人になる  
と、おじいちゃん、おばあちゃんから聞いた  
話を次の世代に伝え、戦争の恐ろしさを語っ  
ていき、もう二度とあんな出来事を起こして  
はいけないうことを教える。それが私にできる  
ことだと思いう。

その気持ちは、いつか世界を変えていくか  
ら。